

ほ ど 教育センター通信

火床の火の心を紡ぐ

第8号（通算69号）
令和元年 12月16日
三条市小中一貫教育推進課
教育センター 発行



11月19日(火)

瑞穂学園乗り入れ授業

本成寺中学校の甲先生が月岡小学校5年生の教室に乗り入れ、担任の菰澤先生と社会科の授業を行いました。中学校の学習とのつながりを活かしたすばらしい授業でした。

「数学プロジェクト」 本年度の価値ある取組をいかに生かすか

教育センター指導主事 井口 浩

本年度の「数学プロジェクト」は、県立教育センター指導主事をはじめ、市教研算数・数学部の方々から御尽力・御協力をいただき、計画・実施することができました。誠にありがとうございました。

この学力向上プロジェクトは、県の事業の趣旨を踏まえ、三条市としては、生徒が主体的に数学に取り組む授業づくりの視点からねらいを設定して取り組んできました。その取組の中で、特に大切にしてきたことは、次の2点です。

- ・ 数学部としての取組…各中学校において数学部で授業を構想するとともに、授業公開・研究協議会を踏まえ、その後、数学部としてどのような取組をして、どのような成果と課題が得られたかについて振り返り、簡潔にレポートする。
- ・ 学園としての取組……授業参観、研究協議会に、学園の小学校教職員が参加し、小中一貫教育の視点から議論し、学び合う。

実施後のアンケート結果を見ると、立場によって負担感の差は見られたものの、「準備を頑張った分、生徒も頑張った」「授業者以外の先生も同じ内容を他クラスで実践し、成果や課題を共有できた」など、数学部としての取組に成果がうかがえました。また、「卒業した子どもの姿を見たり学びのつながりを意識したりすることができた」「小中のつながりを意識できた」など、学園としての取組にも成果がうかがえました。特に、今回は全ての授業が関数領域であったことから、結果的に全国学力・学習状況調査等の課題に対応した取組となりました。今後も算数・数学の学力向上を目指して授業研究を継続することが必要です。本年度の取組を生かし、学力向上のための課題を共有すること、その課題を解決するための授業改善を図ること、その取組を三条市の特長である学園を基盤に小中一貫教育の視点から推進することが重要であると考えております。

各 学 園 の 取 組

三条学園



←上林小学校にて

↓裏館小学校にて



11月13日(水)
14日(木)

第三中学校の相田先生が上林小学校と裏館小学校の6年生の教室で、それぞれに社会科乗り入れ授業を行いました。児童たちの社会科への関心・意欲の高まりが見られました。6年生のこの時期に行うことによって、中学校の授業への期待が膨らみます。

三条嵐南学園



11月21日(木)

合同保健委員会が開かれました。「メディアコントロールをするためにできること」をテーマに、児童・生徒・教師・保護者の方々が共に議論を深めました。メディアとの付き合い方を、それぞれの立場で考える大切な時間となりました。

四つ葉学園



11月22日(金)

いじめ見逃しゼロスクール集会では、各校の取組紹介の後、県のいじめ見逃しゼロキャラバン隊からの講話を聞きました。会の最後に全員で声をそろえて、いじめ見逃しゼロ宣言をしました。小学生と中学生が、共にいじめを無くそうと意欲を高めることができました。

三条おおじま学園



11月21日(木)

第2回学校保健委員会では、5年生から中学3年生が理想の睡眠について全体で話を聞いたり、小グループで話し合ったりしました。小学生と中学生が輪になって、理想の睡眠に近づくための解決策を考え、自分の生活を見つめ直していました。

一ノ木戸ポプラ学園



11月25日(月)

一ノ木戸小学校の5年生と第二中学校の1年生が、メディアとの適切な関わり方について、柏崎市立教育センター情報教育主事田村様のお話を聞きました。スマホやタブレットが生活の一部となっている昨今、メディアの怖さや適切な関わり方について考えるよい機会となりました。

さかえ学園



11月22日(金)

学園の6年生が、中2の生徒の職業体験に関する発表を聞いたり、中学校の授業を参観したりする会がありました。中学校の全ての学年の授業や発表を参観することは、中学校の学習の内容や雰囲気を知り、中学校への不安な気持ちを和らげることに役立ちました。

しただの郷学園



12月6日(金)

大浦小学校の校内授業研修会に、学園の先生方が参観しました。大浦小学校は今年度、外国語活動を重点に研修を実施しています。全4回の研究授業を公開し、協議会も少人数ながら大変活発に行われました。今後、得た知見が学園の外国語の授業に生かされることを期待しています。

大崎学園



11月21日(木)

全校児童生徒が一堂に会し、絆づくり集会(いじめ見逃しゼロスクール集会)を行いました。全校で練習をした「パプリカ」ダンスを踊り、絆を強め、その後、人権教育、同和教育の学習で学んだことを、学年ごとに発表しました。人権や仲間との絆について深く考える時間をもてました。

「学級生活の満足感を更に高める次の一手」

小中一貫教育推進課 指導主事 田村 和弘

1 今年もすごい三条市のQ-U結果

昨年度同様、今年度の第1回Q-Uも三条市の満足群に属する児童生徒の割合が全国平均を大きく上回りました。先生方が規範意識と温かい人間関係づくりを柱にきめ細やかな学級経営をされ、児童生徒の学級生活の満足感を高めている成果です。これを更に高める次の一手を紹介します。

2 次の一手は「意図的・計画的なソーシャルスキル・トレーニング」

河村(2007)は親和的で建設的にまとまった学級では多くの児童生徒がソーシャルスキルを高いレベルでバランスよく活用していることを指摘しています。ソーシャルスキルが身に付いていればトラブルを未然に防ぐことができます。教師が意図的・計画的に学習としてソーシャルスキルを身に付けさせる場面が必要です。

河村(2007)はソーシャルスキル・トレーニング(以下SST)の基本的な展開を次のように示しています。【河村(2007)P28-29より一部抜粋】

① 教示

身に付けさせたいスキルの内容とそれを訓練する意義を理解させます。

② モデリング

よいモデルや悪いモデルを見せて、スキルの意味や具体的な展開の仕方を理解させます。

③ ロールプレイ(リハーサル)

場面を設定して実際に練習します。この時、楽しさや喜びを感じさせることがポイントです。

④ 強化

適切な行動ができたときに教師や友達がほめたり、微笑んだり、注目したりします。

学校訪問や経験等からSSTの場面設定として私は次のように考えます。

① 全校SST

特別に時間を設定して計画的にSSTを行います。教職員が劇等でモデリングをして、その後学級に分かれてロールプレイをします。

② 学級活動の時間に行うSST

学年・学級の実態に合わせて学活の時間に行います。教師主導でやる場合の他に、学級会等で人間関係の問題点を挙げて、その解決策として行うとより意欲的な取組となります。

③ 児童会・生徒会企画によるSST

よりよい学校づくりの一環として児童会・生徒会活動に位置付けて行います。

※いずれの場合も、**単発のイベントとせず、一定期間実施し成果の振り返りを行うことが重要です。**

意図的・計画的なSSTは侵害行為を減らすことを通して、学級生活の満足感を更に高めます。

3 児童生徒に定着させたいアサーティブな表現

先生方は「ソーシャルスキルとして当然身に付いていると思っていることが身に付いていない」と感じることはありませんか。私はそのような思いをもったことがしばしばありました。私たちはソーシャルスキルを様々な機会をとらえ、指導する必要があると考えています。

今、私がソーシャルスキルの中で注目しているのはアサーティブな表現です。平木(1993)はアサーティブを「自分も相手も大切にしたりやり方」と定義しています。先生方の周りに次のような児童生徒はいませんか。①相手に自分の主張を通すために攻撃的な表現をしてしまう。②相手との摩擦を避けるために相手の主張を無条件に受け入れてしまう(非主張的な態度をとる)。どちらも人間関係がうまくいかなかったり、長続きしなかったりします。これを解決するのに効果的な表現がアサーティブです。ぜひ、SSTの中に取り入れていただきたいと思っています。

各校での計画的なSSTの実践をお願いいたします。

<参考文献>

河村茂雄 2007 いま子どもたちに育てたい学級ソーシャルスキル小学校低学年 図書文化社 P25, 28-29

平木典子 1993 アサーション・トレーニングーさわやかな〈自己表現〉のためにー日本・精神技術研究所 P15-16

<お知らせ>

アサーション・トレーニングに関するDVDを三南視聴覚ライブラリーが購入しました。ぜひ御活用ください。